

闘いすんで日は暮れず!

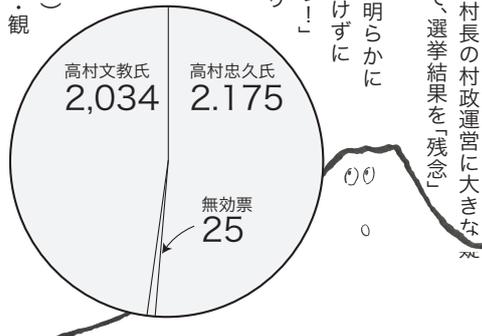
文字通り村を二分した村長選は、わずか1票の差で、高村忠久氏が当選しました。

樋口は、村議会議員に当選以来、高村朝次現村長の村政運営に大きな疑問を感じ、村政刷新を主張してきた一人として、選挙結果を「残念」に思っています。

しかし同時に、両陣営の選挙手法の違いが明らかになるにつれ、いかなる圧力、誘惑、干渉にも負けずに「山中湖村を変えよう!」「いい村をつくらう!」と投票された2034票を輝かしく、また誇りに思っています。

「山中湖村の夜明けは近い」と訴えましたが、当落とは別に得票数字が示す意味合いは「夜明けは目前である」ことを明らかにしています。

そして、新村政が正常に運営されていくためには、村民の半数近い(実際は半数以上かも)の意思や願い(『財政の健全化・開かれた村政・観



選挙戦から生まれた新しい力の広がり

今回の選挙で、高村文教陣営は、金権、派閥、中傷を廃し、候補者自らが辻ついで胸を開いて政策を訴えた、山中湖村始まって以来の歴史に残る村長選挙であったと考えられます。

村議ひぐちの
村民かわらばん
2004年12月24日 第20号発行責任者・ひぐち重喜
〒401-0502 山中湖村平野1698 TEL&FAX 0555-65-0000

その波の大きさは、いくつもの草の根を動かしました。選挙直後に20歳代、30歳代の青年たちが、これを機会に政治を自分たちのものにしていくこと、「村のために、自分たちができることを具体的に実行していく」と、誰に強制さ

れたわけでもなく、自発的な行動を開始されたという話を聞き、明らかにこの村は変わった!と叫ばずにはいられません。
「樋口さん、川は大海に向かって流れます。もはや、山に向かうことはありません!」と開票結果に落胆している心を励まして下さったH先生の言葉の意味が、すでに目の前に現れつつあるのです。

多くの村民から疑問の声 観光振興公社って何?

選挙中より「観光振興公社」の運営や管理はどのようになっているのか?という村民から多数問合せがあり、「公社」の人事・採用管理、業務責任、職務規定などについて議会で質問をしようとした。
役場当局は、「公社は、一般の会社と同じ扱い」で、議員の質疑対象外であり回答できないとの返事でした。しかも議

前日「公社」の管理規約集等は役場にはない」と総務課長の窓口回答もあり、言葉どおりであれば、役場は「全く管理していない」ことになりました。
そうすれば、問題となっている「観光振興公社」内の人事トラブル、給与の不公平、各観光施設の売上減少などの原因は、ひとえに行政当局の無責任体質にあることは明らかです。
「観光振興公社」の資本金3000万円は、全額税金から出資されており、取締役は、村長、前および現職議会議長、観光協会長で組織され、社長には村長が就任しています。
しかも、毎年2億円前後が「委託料」と

して税金から支払われ、公社の決算が赤字になれば翌年度に補填補正すらされています。(一般の会社ではありえないこと)
その上、「税金は1円もいただいておりません」との公社総務部長の認識不足の強弁や、花の都などの入場者数を毎年大幅に減少させている総支配人の業務責任など、全く野放し状態で、従業員の見解や提言すらくみ上げられていません。
村民の多額な税金が投入されているながら、村長以下行政当局の無責任な管理や、議会のチェック機能を拒否していることに、村民心理として到底許せないものがあります。
観光振興公社は、観光施設管理の重要な機関であり、シッカリした管理運営と、

12月定例議会の報告

12月定例議会が、9日召集され14日閉会となりました。
高村朝次村長にとっては、最後の議会(12月26日任期満了)でした。
議会には、人事案件を含む22の議案が提出され、樋口は、このうち以下の3議案については、「1」の理由を述べて反対し、他の議案については賛成しました。

- 一、山中湖村山中墓地設置及び管理条例について(「公金の公正・平な運用に疑義」)
- 二、平成15年度山中湖一般会計・特別会計歳入歳出決算認定について(「詳細は後述」)

平成15年度の決算(一般会計・特別会計)の内容

●決算規模: 歳入...一般会計+特別会計=6,771,318,000円
歳出...一般会計+特別会計=6,629,776,000円
●決算収支: 上記を差引きした形式収支は141,542,000円の黒字ですが、これから16年度へ繰り越すべき財源を差し引き、14年度の実質収支額を控除した平成15年度だけの収支では、176,748,000円の赤字となります(一般会計、特別会計ともに赤字)。
●公債費(借金の元利合計返済額)について
一般会計の公債費は、614,625,000円で構成比は全体の12%でした。
ところが、「地方債の状況」欄には、借金返済総額1,217,761,000円と計上されています。これは、一般会計の公債費と特別会計の借金返済分の合計額です。
しかし、特別会計分は一般会計から『繰出金』として支出された

皆さんは、この出費を了承しますか?
ご存知のように、ハリモミ純林を買った時十一億八、八七〇万円を山梨中央銀行から借金しています。一方、購入代金に充てるように山中浅間神社入会管理組合からの寄附金十五億円のうち、借金と同じ額を「減債基金」に積み立てています。今回の決算で、その金利の差額はいくらで、何故そのような無駄な資金運用をしているのか質問をしました。総務課長は、支払い金利額を含む明快な回答ができず、収入役も「適正に運用している」という言葉を繰り返すのみでした。
樋口の計算では、この預貸金利の差額は約一、一〇〇万円以上になり、これを山梨中央銀行に差額金利として無駄に支払ったわけですから、適正に運用していただければ、福祉や教育政策、体育館の雨漏り修理、観光協会への補助金などに使えたお金です。村民の要望に対しては、
一言目に「金がない」という役場の対応の反面、こんな無駄な資金運用が決算として容認できるはずがありません。しかも入会管理組合員への背信行為であり、担当者の責任は免れません。
●決算承認の反対理由
決算承認の議案では、樋口の反対討論に続き、高村功議員がダム工事を含めた大型事業の賛美を織り込んだ賛成討論の原稿を読み上げると拍手があり、樋口以外の議員の起立採決により決算は承認されました。

- 報告&談話会を開きます。お気軽にご参加ください
- 村長選の総括について
- 12月定例議会の報告
- これからの山中湖について

12月26日(日)
夜7:00から
旭日丘中央公民館
(2階講堂・暖房完備)